

事務事業マネジメントシート(平成25年度実績と平成26年度計画)

平成26年 1月24日更新

事務事業名		後期高齢者保健事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連 <input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連 <input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連			
総合計画体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり			所属部	健康福祉部	課長名	可徳 精至
	施策	15	健康づくりの推進			所属課	高齢者支援課	担当者名	工藤 輝実
	基本事業	43	病気になる生活習慣の確立			所属班	高齢者保険班	(内線)	2144
予算科目		会計一般	款 3	項 1	目 13	事業連番 11625	法令根拠	成果優先度評価結果 : ① コスト削減優先度評価結果 : ⑥	
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 25年度で終了 <input type="checkbox"/> 25年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 26 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)		

★事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	後期高齢者人間ドック検診費用助成(見込値100人)及び後期高齢者肺炎球菌ワクチン接種費用助成(同500人)を実施する。 (人間ドック助成) 検診費用の10分の7以内で25,000円を限度(うち広域連合補助15,000円)。 (肺炎球菌ワクチン接種助成) 3,000円(広域連合補助2,000円) 74歳までは国保事業により人間ドックの助成を受けることができていたが、75歳(後期高齢者医療被保険者)になると助成事業がないということで、被保険者から事業実施の要望がでていた。健康志向が高まり、自分自身の健康管理に関心がある後期高齢者が増えている。また、肺炎による死亡(熊本県は死亡原因の第3位)のうち肺炎球菌によるものが3分の1を占めると考えられており、75歳以上で急激な増加がみられる。ワクチン接種で免疫ができ、重症化を防ぐことができる。
【業務の流れ】	〔人間ドック〕県・郡市医師会、医療機関との協議・契約。受診希望者募集(周知・決定)。受診日調整。結果説明会。医療機関へ助成金支払。広域連合へ補助金申請。〔肺炎球菌ワクチン接種〕医療機関との協議・契約。接種希望者募集。接種期間(8月~12月)。医療機関へ助成金支払。広域連合へ補助金申請。
【主な予算費目】	人間ドック助成(役務費25千円、委託料2,500千円) 肺炎球菌ワクチン接種助成(役務費125千円、扶助費1,500千円)
【意見や要望】	議会での質問もあり平成26年度から取り組むことを答弁している。
関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?	

1 現状把握の部(DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分:新規
①手段(主な活動) 25年度実績(25年度に行った主な活動)(DO)	26年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 後期高齢者健診委託、人間ドック検診委託、肺炎球菌ワクチン接種委託、鍼灸施術助成
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 予算の主な増減の理由 →☆☆☆ 指標名が未入力です。指標名を入力してください ☆☆☆ 人間ドック検診委託料2,500千円、肺炎球菌ワクチン接種委託料1,200千円の増
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等 後期高齢者医療被保険者	②対象指標(対象の大きさを表す指標) (単位) →ア →イ
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか) 自主健康管理意識が向上する	③成果指標(意図の達成度を表す指標) (単位) →ア →イ
*③成果指標設定の理由と26年度目標値設定の根拠	総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

各指標・総事業費の推移		単位	実績(決算)	実績(決算)	25年度 目標(当初予算)	25年度 実績(決算)	26年度 目標(当初予算)	27年度 予定	見込	見込
①	活動指標	ア イ								
②	対象指標	ア イ								
③	成果指標	ア イ								
投資 入 費 量	財源内訳	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円					9,765		
		繰入金	千円							
	(A)事業費計	一般財源	千円					2,944		
		(A)事業費計	千円			0	0	12,709	0	
		(A)のうち指定経費	千円			0	0	33	0	
	人件費	(A)のうち時間外、特勤	千円			0	0	33	0	
		正規職員従事人数	人			0	0	0	0	
延べ業務時間		時間			0	0	0	0		
(B)人件費計		千円			0	0	0	0		
トータルコスト(A)+(B)		千円			0	0	12,709	0		

事務事業名	後期高齢者保健事業	所属部	健康福祉部	所属課	高齢者支援課
-------	-----------	-----	-------	-----	--------

2 評価の部 (SEE)

*原則は25年度の後評価、ただし複数年度事業は25年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①25年度目標達成度評価 事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は？	<input type="checkbox"/> 達成した	<input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因】
	②26年度目標達成見込み 事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか？	<input type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策】
有効性評価	③成果の向上余地 次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか？成果が頭打ちになってないか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】
	④類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】
効率性評価	⑤事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化 事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】	<input type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】

3 評価結果の総括 (SEE) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

4 今後の方向性(事務事業担当課案) (PLAN)

<p>(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可</p> <p><input type="checkbox"/>廃止 <input type="checkbox"/>休止 <input type="checkbox"/>目的再設定 <input type="checkbox"/>事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(有効性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/>事業のやり方改善(公平性改善)</p> <p><input type="checkbox"/>現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)</p>	<p>(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持																					
	低下																					
<p>(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策</p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px;"></div>																						